

# The Mille Has Times



2024  
SUMMER  
VOL.9

野村万作・萬斎「狂言の世界」  
趣深いおかしみで魅了

Interview

野村万作さん／野村萬斎さん

9月に「青春するべ！」ミルハス公演

# Interview

インタビュー



狂言師で人間国宝の野村万作さん、野村萬斎さんらによる公演「狂言の世界」が6月8日、大ホールで開催された。あきた芸術劇場ミルハスで初の狂言公演。1部の演目「<sup>ふたりばかま</sup>二人袴」では萬斎さんと、萬斎さんの長男・野村裕基さんが親子役で息の合った掛け合いを見せた。2部「六地蔵」では萬斎さんの父・万作さんが登場。92歳（本号発行時93歳）ながら舞台を駆け回り、円熟味のある芸で観客を魅了した。

92歳の万作さん(右)は円熟した芸で観客を魅了



笑いの奥にある一面感じて

## ミルハス初の狂言舞台

【野村万作さん(狂言師)】

— 狂言の特徴や魅力を教えてください。

観客の笑いを誘う喜劇的な内容の演目が多い一方で、幽玄や人の優しさを感じさせてくれる演目もさまざまあります。狂言は700年の歴史の中で、物事の良さや美しさ、日本人



ならではの笑いの性質をたくさん伝えてきました。

— 狂言の奥ゆかしさはどのようなところに表れますか。

笑うばかりが狂言ではありません。例えば、こんな演目があります。ある家に盗みに入った泥棒が、主人に見つかって縄で縛られた。ところが、泥棒が実に文学的なうまい歌を詠んだので、感心した主人は泥棒に酒を振る舞い、花の枝を授けてやった—という内容です。この物語に表れているのは人の優しさ。味わい深く表現するためには、所作や言葉の発声が美しく洗練されていないといけません。時間をかけて修業し、そうしたことが体現できた時、狂言の「笑いを越える一面」が見えると思っています。そうした奥ゆかしさを、見ている人に感じてもらえ



詐欺師役を巧みに演じた万作さん

たらうれしいですね。

— 92歳の今も元気に舞台に立つための原動力は何ですか。

高齢になり元気でない部分もありますが、人様には元気に見せなくてはいけないと思ってやっています。90歳を越えても元気な人がいるのだなと、お客様にとっての刺激になればいいと思います。今回の公演のように、親子三代で舞台に立つ機会が増えています。特徴的なのは、一番若い孫世代でも20代の大人であること。そうした意味では、長生きをしたおかげで非常に珍しい三代共演ができています。

## 野村萬齋さん(狂言師)

—公演を終えた感想はいかがですか。

会場の中央からの音の抜けが良く、すてきなホールでした。お客様は手をたたいたり笑ったりと反応が良く、喜んでいるのが伝わってきました。



—狂言が長く受け継がれてきた理由をどう考えますか。

「このあたりの者でござる」というせりふに表れているように、狂言に登場するのは名もない普通の人。誰しもが経験するちょっとした失敗やへまを笑い飛ばせるのが狂言のいいところです。普遍的な人間模様を題材としているからこそ、人々に共感され、現代まで生き続けてこられたと言えるのかもしれない。

—舞台演劇の演出を手掛けるなど、狂言の枠を超えた表現活動にも積極的ですね。

現代演劇や現代芸術、現代音楽に狂言や能の知恵を織り交ぜる挑戦を重ねてきました。狂言、能に限らず、日本文化の伝統はたくさんの引き出しが

表情豊かな演技に引き込まれました



あるたんすのようなもの。それをうまく活用して、新たな創造を続けていきたいです。

—現代社会での狂言の価値、役割をどう捉えていますか。

狂言は、皆さんが生きる糧にするために使える文化財です。物語を通して何かを疑似体験し、生きるということを考えたり戒めを得たりする。公演を通じて、多くの人に演劇という芸術の効果や価値を示していく必要があると思っています。

「狂言の世界」公演の記事と写真は、ミルハスのホームページでも紹介しています。



# 人間模様に時代超えた共感



萬齋さん(右)と裕基さんが息の合った舞を見せた「二人袴」の一場面



# Interview

インタビュー



講談師・神田伯山さんの独演会が5月12日、中ホールで開かれた。伯山さんは、講談を初めて聞く人にもなじみやすい4席を小気味よい読み口で披露。観客は滑稽な場面描写に笑ったり、シリアスな展開に息をのんだり、奥深い講談の世界を堪能した。寄席のほか、テレビやラジオ、ユーチューブなどで幅広く活動し、講談普及の先頭に立つ存在の伯山さん。公演を終えての感想や、講談の楽しみ方などについて話を聞いた。

## 神田伯山独演会

# 小気味よい読み口、観客魅了

## 「種をまく感覚」 講談普及の先頭で

—秋田の観客の印象はどうか。

集中力のあるお客様で、徹底して聞いていただいた印象です。秋田での公演は約3年ぶりでしたが、やりやすかったです。今回の公演をきっかけに、私以外の講談師の公演も聞いてみようと思っていたらうれしいです。

—講談の魅力や、楽しみ方を教えてください。

日本語が分かりさえすれば、どなたでも楽しんでいただけたと思います。詳細な知識は不要です。滑稽、怪談、人情など、講談には人間の喜怒哀楽にまつわるさまざまな題材があります。今回披露した4席のうち、1席でも心に刺さっていただいたら本望です。だんだん講談に慣れて耳になじんできたら、時代物などの堅い読み物も十分楽しんでいただけるようになります。

—同じ題材でも、講談師によって個性が出ます。自身の強みは何ですか。

僕はお客さんとして講談を聞いていた時期が6年ほどありました。ですから、お客様の視点に立って、親しみやすいような講談を読んでいます。落語家さんや色物の先生も舞台上立つ寄

### かんだ・はくざん

1983年東京生まれ。2007年三代目神田松鯉に入門し、松之丞と命名される。12年二ツ目昇進。20年真打昇進と同時に六代目神田伯山を襲名。早くから頭角を現し、今や「最もチケットの取れない講談師」と評されるほどの人気を博す。花形演芸大賞では、20、21年度金賞、22年度大賞。TBSラジオ「問わず語りの神田伯山」、公式ユーチューブ「神田伯山ティービー」などを通じて幅広い世代に講談の魅力を発信している。24年4月公開のアニメ映画「クラユカバ」では声優として初主演を務めた。

席など、必ずしも講談を聞きに来たお客様だけではないアウェーの舞台にも多く出演してきました。そうした活動を重ねる中で自然と、初めての人にも聞きやすいネタを考えて読むようになったと思います。

—多方面で精力的に活動する中で、どんな思いがご自身を支えているのですか。

講談の種をまいている感覚があります。幅広い人に講談の面白さを知ってもらい、喜んでいただきたい。映画を見に行ったり、旅行に出掛けたりするのと同じように、カジュアルに講談を聞きに行く風潮ができればいいと思っています。

# 児童28人、舞台の仕事に興味津々

小学生を対象としたあきた芸術劇場ミルハスの「バックステージツアー（お仕事体験編）」が5月6日、大・中ホールで開かれ、児童28人が参加した。大ホールを見学した後、中ホールで音響、照明、舞台監督の仕事を体験。会場に音楽が流れ、さまざまな色と模様を映した照明で舞台が彩られると、子どもたちは目を輝かせて喜んでいた。

音響の機械はボタンやつまみがたくさん。間違えずに操作できるかな

照明機器の操作方法を教わる子どもたち。真剣な表情



無線機で音響役や照明役と連携を取る舞台監督役の児童。ちょっとドキドキ

## 舞台のせり初めて体験 伊藤楓果さん(広面小6年)

「初めて舞台のせりに上がって、友達と一緒にポーズを決めたのが楽しかった。照明の仕事は、音楽の雰囲気に合った好きな色や模様を選べるのが面白かった」

## 裏方の仕事かっこいい 中山駿介さん(旭北小6年)

「お仕事体験は緊張したけど、音響の仕事が一番楽しかった。舞台スタッフは、ステージに立つスターをさらに輝かせる仕事をしていると知って、かっこいいと思った」

## 音響の部屋にわくわく 本間彩心さん(広面小4年)

「スタッフの人に分かりやすく教えてもらって、どの仕事もうまくできてうれしかった。音響の部屋は暗くて、機械にボタンやつまみがたくさんあって楽しかった」

## 公演中に災害が発生したら…

# 避難訓練コンサートを初開催

ミルハス主催の「避難訓練コンサート」が5月27日、大ホールで初めて開かれた。公演中に地震と火災が発生した想定で避難訓練を実施。職員だけでなく観客と演奏者を交えることで、災害時の対応を実践的に確認できた。

一般応募の約300人が観客として来場した。演奏者としては秋田県警音楽隊の25人が協力。ミルハスからは職員約30人が参加した。

演奏中に緊急地震速報の音が鳴り響くと、観客は頭を守り低い姿勢でホール内に待機。その後、「火災の発生と避難開

始」を伝える館内放送が流れ、外につながる1階エントランスロビーに「避難」した。

スムーズに移動できるよう、職員は観客を四つのルートに分けて誘導。演奏者と車椅子客には舞台裏を経由するルートを案内した。内部の情報伝達や119番通報、安全確認の手順なども確認。ロビーには防災本部を設置し、館長が避難状況を取りまとめた。全員の避難完了までにかかった時間は12分だった。

観客アンケートには「拡声器の指示が聞き取りにくかった」「観客を落ち着か



階段を使って1階エントランスロビーに「避難」する観客たち

せる呼び掛けがあればいい」などの指摘があった。ミルハスは今後も訓練を重ねながら反省点を改善し、防災力の向上につなげていく。

バックステージツアーと避難訓練コンサートの記事と写真は、ミルハスのホームページでも紹介しています。



# 由利高校民謡部と再び共演

9月、わらび座「青春するべ!」ミルハス公演



わらび座との共演では、モットーの「由利民スマイル」を見せたいと意気込む

アオハル  
わらび座ミュージカル「青春するべ!~由利高校民謡部ストーリー~」のあきた芸術劇場ミルハス特別公演が9月29日、中ホールで開かれる。由利本荘市の由利高校民謡部をモデルに、部員たちの青春と成長を描いたミュージカル。同校の現役民謡部員との共演が再び実現する。現役部員たちの活動をのぞき、共演への意気込みなどを聞いた。



するべ!」の由利本荘市特別公演でも共演している。わらび座からは民謡部出身の役者

トヤートセ コラ 秋田音頭です…。  
張りのある伸びやかな歌声が響いていたのは、民謡部が練習に使っている教室。6月初旬のこの日は、7月の定期発表会に向けた練習に精を出していた。

唄に合わせ、三味線や太鼓、笛を奏でる地方、踊り手が空間を盛り上げる。一人一人が役割を担い、一体となってパフォーマンスをつくり上げる。今野愛咲さん(2年)は「みんなとワイワイする感じが好き」と笑う。民謡や郷土芸能の魅力について「たくさんの方が何年も受け継いできた伝統が今に生きているところ」と話す。

民謡部とわらび座は、2022年12月に行われた「青春

2人が出演。由利高生はミュージカルの一場面を演じたほか、役者を交えたコラボステージも披露した。

その公演に出演した安部詩織部長(3年)は、ミュージカルの内容について「民謡部が県大会に臨む場面で緊張感が伝わってきた」と話す。主人公たちが部活動を通して経験するさまざまな気持ちに共感できたといい、「物語の中で民謡部員がたくさんの困難を乗り越えながら団結していく姿を見て、自分たちも頑張ろうと思った」と語る。

3年生は8月の全国大会で引退。9月のわらび座公演には1、2年生が出演する。今野さんは「パフォーマンス中の笑顔『由利民スマイル』が私たちの良さ。すてきなステージになるよう頑張る」と意気込んでいる。

## 公演概要

- ◆日 時: 9月29日(日) 13:30開場/14:00開演
- ◆会 場: あきた劇術劇場ミルハス 中ホール
- ◆主 催: あきた芸術劇場ミルハス
- ◆チケット: 全席指定 4,500円

※チケット購入はミルハス公式サイトでの公演ページから



【あらすじ】 亡き母の古里・由利本荘市の高校に転校してきたさくらは、同級生に誘われて民謡部に入る。初めての慰問公演は大雨の影響で部員がそろわず、大失態を演じてしまう。その上、祖母が突然倒れて入院。もう民謡部は続けられないと言うさくらに、仲間がかけた言葉は…。そして、秋田県大会当日、思わぬ事態に見舞われた民謡部はどんな選択をするのか。伝統と絆が織りなす青春物語。

2024年 7月・8月・9月

# 公演・イベント情報

7/6(土)

●大ホール  
Shizuka Kudo  
「明鏡止水～piece of my heart～」  
Concert Tour 2024



18:00開演  
【お問い合わせ】  
AKT秋田テレビ営業推進事業部 TEL:018-866-8030

7/15(月・祝)

●中ホール  
月亭八方一門会



13:00開演  
【お問い合わせ】  
AKT秋田テレビ営業推進事業部 TEL:018-866-8030

8/14(水)

●大ホール  
blastプラスト!



18:00開演  
【お問い合わせ】  
キョードー東北 TEL:022-217-7788

7/11(木)

●大ホール  
由紀さおり  
55thコンサート  
～新しいわたし～



15:00開演  
【お問い合わせ】  
秋田魁新報社事業局 TEL:018-888-1857

8/3(土)

●大ホール  
あきた民謡祭2024



15:00開演  
【お問い合わせ】  
あきた民謡祭実行委員会事務局(スペースプロジェクト内)  
TEL:090-9549-5481

8/26(月)

●大ホール  
2024 さだまさし  
コンサートツアー"51"



18:00開演  
【お問い合わせ】  
キョードー東北 TEL:022-217-7788

7/13(土)

●大ホール  
wacciライブ in秋田



17:00開演  
【お問い合わせ】  
AKT秋田テレビ営業推進事業部 TEL:018-866-8030

8/4(日)

●小ホールA  
平丈恵(マンドリン)  
建孝三(ギター)  
Summer Concert 2024



13:00開演  
【お問い合わせ】  
平ともえ TEL:090-9748-9967

9/1(日)

●大ホール  
NHK交響楽団  
秋田特別公演



17:00開演  
【お問い合わせ】  
キョードー東北 TEL:022-217-7788

7/13(土)

●中ホール  
秋田が大好き!  
フルサト超感謝祭 in秋田



14:00開演  
【お問い合わせ】  
AKT秋田テレビ営業推進事業部 TEL:018-866-8030

8/3(土)～9(金)

●中ホール  
祭シアター「HANA」



※期間中の6日(火)は休演  
開演は日によって11:00、14:00、16:00、19:00のいずれか  
【お問い合わせ】  
インフォメーションデスク(わらび劇場内)  
TEL:0187-49-6315

9/7(土)

●中ホール  
真田ナオキ  
コンサート2024



13:30開演  
【お問い合わせ】  
世界芸能 TEL:022-222-4997

7/14(日)

●大ホール  
石田組結成10周年ツアー



14:00開演  
【お問い合わせ】  
AKT秋田テレビ営業推進事業部 TEL:018-866-8030

8/10(土)

●大ホール  
バレエの妖精とプリンセス  
～ヨーロッパ名門バレエ団の  
ソリストたち～



14:00開演  
【お問い合わせ】  
秋田魁新報社企画事業部 TEL:018-888-1857  
光藍社チケットセンター TEL:050-3776-6184

9/11(水)

●中ホール  
春風亭一之輔の  
ドッサリまわるぜ2024



18:30開演  
【お問い合わせ】  
ノースロードミュージック TEL:018-833-7100

7/15(月・祝)

●大ホール  
荒牧陽子&松浦航大  
歌まねジョイントライブ  
in秋田



14:00開演  
【お問い合わせ】  
AKT秋田テレビ営業推進事業部 TEL:018-866-8030

8/10(土)

●中ホール  
稲川淳二の怪談ナイト  
～怪談喜寿～



14:00開演  
【お問い合わせ】  
ノースロードミュージック TEL:018-833-7100

※掲載しているのは公演・イベントの一部です。情報は6月中旬時点のもので、「チケット完売」の記載がない公演でもお読みになった時点では完売している場合があります。ご了承ください。



▲詳細はこちら

# Mille Has information

あきた芸術劇場ミルハス1階のカフェレストラン「シアターカフェC's」では、ランチプレートやドリンク、スイーツなど豊富なメニューを用意しています。公演を見に来た際や施設利用の合間に、おいしい食事をお楽しみください。

県産ギバサ入りたらこパスタ(1,200円)は、ギバサの食感と粘り気、磯の香りがたらこマッチ。県産ビーフのハンバーガー(1,400円)もお勧めです。このほか、和風ハンバーグプレート(1,500円)やオムハヤシ(1,400円)が人気です。全てのメニューがテイクアウト対応。

県産ギバサ入り  
たらこパスタ  
(1,200円)



和風ハンバーグ  
プレート(1,500円)



夏にお勧めのクリームソーダ(600円)

暑い夏にぴったりなのがクリームソーダ(600円)。イチゴ、メロン、ブルーの3種類から味が選べ、バニラアイスの上にはチェリーをトッピング。鮮やかな色のかわいいドリンクです。テイクアウトして、周辺を散策しながら飲むこともできます。



Produced by  
Akita Castle Hotel

## シアターカフェC's(シーズ)

営業時間 | 午前11時～午後5時(ラストオーダーは午後4時半)

定休日 | 火曜・年末年始

※レストランで1,000円以上購入すると、ミルハスの付属駐車場の料金が割引になります。

sensyu-komichi

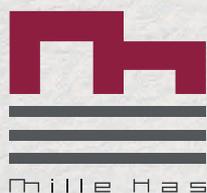
# 千秋小徑



「今日も泣かされちゃうかなあ」。ミルハス中ホールの3番出入り口から中に入ったとき、続いて入場してきた女性グループから声が聞こえた。今年1月、藤田俊太郎さんが演出する「ラヴ・レターズ」開演間際のことだ▼それは問いのようでい

て問いでない。「今日も」と思ってやって来る。期待が漏れたのだ。「ラヴ・レターズ」は演者二人が座って台本を読む朗読劇。大掛かりな舞台装置はもちろん物語の世界に導く衣装も場面を際立たせる照明や音楽もない。それでいて1990年以降の出演カップルは延べ500組を超える▼シンプルな仕掛けでも与える感動が大きいことを公演実績が証明している。シンプルなほど演者は自分のエネルギーをいかに生き生きと客席に届けるかに腐心するはずだ。観客もそこへ集中するなら、両者が強く接続するのは自然なことだ▼中学生のころに「夕鶴」を観劇した。体育館での素朴な上演。知識も期待もなかったのに、自分はどうかして

しまったのかと不安になるほど引き込まれた。生身のエネルギーに心を絡め取られた最初の体験だ。ライブにこそできることがあり、それゆえ人はホールに足を運ぶ▼とはいえなぜ人は心揺さぶられる体験を求めるのだろう。日常生活で心に付着した汚れを払い落とすためか。カタルシスという言葉を持ち出せば片が付きそうだが、煙に巻かれそうでもある。藤田俊太郎さんはときに「奇跡が起きる」という表現を使う▼「ラヴ・レターズ」を観終えて冒頭の女性客を思った。涙をふき、軽くなった足取りで家路に就いた姿が浮かぶ。多くの観客が同様に心を軽くして帰っていったのなら、ホールに「奇跡は起きた」だろう。



あきた芸術劇場  
Akita Arts theatre  
ミルハス

<発行>あきた芸術劇場ミルハス  
〒010-0875 秋田市千秋明徳町2番52号  
TEL.018-838-5822 FAX.018-838-5825  
E-mail/info@akiat.jp https://akiat.jp

